

# 【事業実績】

## 1. 文化ゾーンエリア内の各施設が連携した地域文化の情報発信

5回にわたる検討会（会場：鹿児島県歴史・美術センター黎明館）を通して、博物館や美術館、文学館、図書館、公民館、多目的ホール、交流センターなど多様な分野の9つの施設で「かごしま文化ゾーン」エリアの特性や魅力を共有し、共通するテーマで各施設がその特徴を生かした事業を行うことにより、より有意義な連携と情報発信を図った。

### ■「かごしま文化ゾーン」エリアの特性の整理と共有

鹿児島（鶴丸）城跡に所在（山城（城山）と麓の居館）／国指定天然記念物・史跡指定されている城山／日本遺産「薩摩の武士が生きた町～武家屋敷群「麓」を歩く」の構成資産／鹿児島城「御楼門」の復元が令和2年3月に完成

### ■ 共通するテーマの設定

鹿児島（鶴丸）城跡

#### (1) 文化ゾーン地区の歴史や文化の理解のためのスタディツアープログラムの構築

子どもたちが鹿児島（鶴丸）城跡のエリアを巡りながら、自然・歴史・文化を楽しく学べるプログラム

- ① 名称 「みんなのかごしま文化ゾーンまなブック」
- ② 対象 修学旅行等の児童生徒など、次代を担う若い世代の方々（文化ゾーン地区を対象としたグループ活動で活用）
- ③ プログラムの構成物（製作物）

- ア. 「みんなのかごしま文化ゾーンまなブック」（A5・20P）：エリアの自然や歴史の解説と施設の紹介
- イ. 「まなびのワークシート」（A4 両面・8館）：各館においてより深く学ぶためのワークシート
- ウ. ツール：見どころシール・缶バッジ・バッグ・スタンプ

（バッグは期間 限定のイベント実施時に活用）

#### ④ 利用方法

- ア. 「かごしま文化ゾーンまなブック」プログラムの利用
- イ. 「ワークシート」のみの利用

#### ⑤ プログラムを使った、文化ゾーンのめぐり方

- ア. 「まなブック」をもとにエリアめぐり（屋外）
  - テーマ：歴史、自然、アート（〇〇像）、建物、お城
- イ. 興味のある施設を訪問し、「来館スタンプ」を押す
- ウ. 各施設の3つの見どころを、「見どころシール」を貼りながら制覇
- エ. より深く学ぶための「まなびのワークシート」にチャレンジ
- オ. 3つの施設を訪問してスタンプを集めると缶バッジをGET



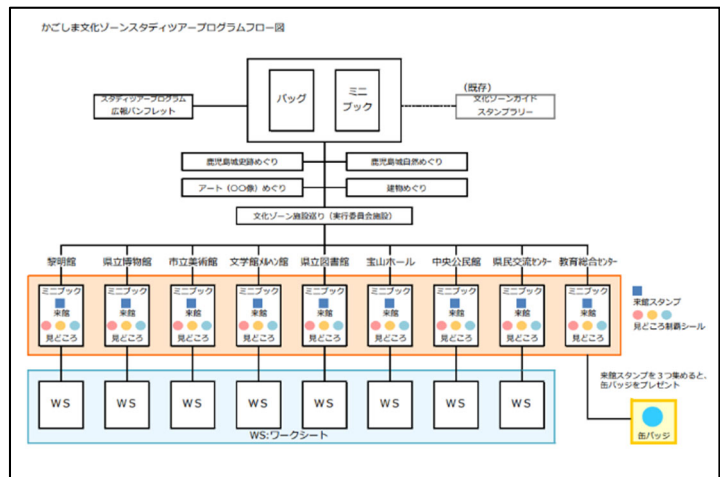
広報用リーフレット

### 小括

近隣のホテルや観光関係者からの聞き取り結果も活かしながら、文化ゾーンエリアの史跡や自然等の散策とエリア内にある各文化施設の訪問を組み合わせ、参加者が興味のあるテーマで散策し、訪問する施設を選べるプログラムとした（詳細はフロー図）。当該プログラムに取り組むことによって、楽しくチャレンジしながら理解を深め、屋外散策から各施設へ、さらに展示場内へと誘導し、より深い学びに繋がるよう工夫した。

プログラムの運用については、新型コロナウイルス禍における現状では直ちに運用しても十分な活動ができにくいという配慮から、単体で取り組むこと

ができるワークシートを、まずは先行して活用できる体制をとり、プログラム全体としての運用は次年度以降、状況を見ながら開始することとした。（現時点では、ゴールデンウィーク前に開始する方向を想定）



## 2. 地域の自然や文化財を活用した地域の魅力の発掘と情報発信事業

### (1) 城山自然発見ウォーク (担当: 鹿児島県立博物館)

#### ① 植物編「西郷どんが守った自然の宝」

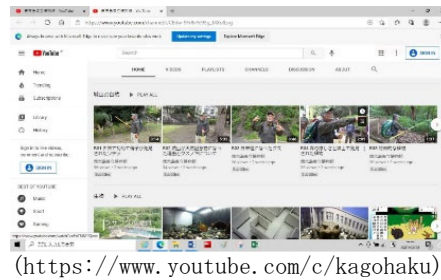
11月1日(日), 講師: 文化庁文化財第二課調査員 寺田仁志氏, 参加20人

#### ② 地質編「城山は鹿児島城～城山の地形・地質を知りつくした城造り～」

11月1日(日), 講師: 鹿児島大学名誉教授 大木公彦氏, 参加20人

#### ③ 動画コンテンツによる情報発信

城山自然発見ウォークの様子や講師による解説を、鹿児島県立博物館のYouTubeコーナーで公開した。観察地点ごとに5分程度のコンテンツにまとめ、内容を把握できるよう工夫した。



2-(1)-①



2-(1)-②



2-(2)

### (2) フィールドワーク「鹿児島(鶴丸)城跡を歩く」(担当: 鹿児島市立美術館)

11月15日(日), 講師: 鹿児島大学准教授 小林善仁氏, 参加20人

#### 小括

専門家と一緒に歩きながら地域住民の方々が地域について改めて学ぶことを目的に実施した。自然史が専門の博物館では植物と地質を、美術館では所蔵する城下絵図をテーマとし、異なる視点から魅力を伝えることができ、アンケートでは「歩きながら見る風景がよりディープになった」「近くにこんないい場所があったとは」「新たな発見や気づきがあった」などの感想が寄せられた。現地での解説を受けることで理解が進み、参加者の満足に繋がるとともに、定期的な実施を望む声が多く、今後の活動に有意義な意見を収集できた。

## 3. 多様な対象者のための学習講座の実施

### (1) ミニコンサート (担当: 宝山ホール・鹿児島県立図書館)

#### ① 「クラシックギターのデュオコンサート」&城山に響け高校生のうた声

10月24日(土), 会場: 黎明館前庭, 参加130人

#### ② 「ピアノとハープによるコンサート」

11月3日(火), 会場: かがしま近代文学館, 参加61人

#### ③ 「天吹演奏会」

12月12日(土), 会場: 鹿児島県立図書館, 参加67人

### (2) ワークショップ「江戸と令和をつなぐ地図」(担当: 黎明館)

10月25日(日), 講師: アートコーディネーター 四元朝子氏, 参加20人



3-(1)-①



3-(1)-②



3-(1)-③

#### 小括

ミニコンサートについては、音楽に興味・関心が高い鑑賞対象者等を博物館や図書館へ誘客することに繋がると同時に、博物館では自由参加としたことで、歴史などのファン層にも音楽に触れる機会を提供することができた。ワークショップでは、街歩きで参加者が発見した景色を、写真とコメントで城下絵図にプロットした地図を製作して博物館内に展示し、多くの来館者にも紹介し、好評であった。また、アンケートでは、「博物館で聴く音楽は、通常は中々体験できないすばらしい体験」「展示できてうれしい」など、文化ゾーンで連携した取り組みや体験的な内容が好評であり、要望が強いことも分かった。一方で、領域横断的な歴史・文化の楽しみ方や、参加者が主体的に学ぶ機会の提供等を、文化ゾーンが連携しながら今後、どのように継続的に提供していけるかが今後の課題である。



3-(2)

## 4. 成果物

- ① 秋の文化ゾーンフェスタチラシ ② 「みんなのかごしま文化ゾーンまなブック」広報チラシ ③ 「みんなのかごしま文化ゾーンまなブック」 ④ 「まなびのワークシート」 ⑤ 見どころシール ⑥ 缶バッジ ⑦ バッグ ⑧ スタンプ